

技術(機械)名: MOH-CAL(もーかる)

会社名 株式会社 コンピューター総合研究所
 担当部署 MOH-CALプロジェクト
 連絡先 029-303-8851

概要

酪農牛・肉用牛の発情、分娩、育生、肥育など飼養管理全般を支援するためのシステムとして、牛にセンサーなどを取り付けるのではなく、牛房に取り付ける赤外線モーションセンサーカメラにより得られた画像について、画像解析によって個別の牛の行動を分析して、その行動に対して異常検知などの必要に応じて牛の管理者の携帯電話やスマートフォンへメール通知するものである。

効果

牛へセンサー類の機器を直接取り付ける必要がないため、肉質や乳質に影響するストレスを与えない。
 機器脱落や機器装着時に牛が暴れることによる事故の心配がない。

人に代わって24時間の行動監視を行ない、異常検知などの必要に応じて警報を発生するため、人の労力削減(特に夜間)の他に、採食、水飲み、歩行量、横臥状態などについての牛の行動監視による異常検知などによって死産率の低減に貢献する。

家畜共済統計から死産率は酪農牛で約7%、肉用牛で約3%で、主要家畜市場での肉用子牛の平均取引価格は約80万円であり、これを肥育する場合、飼料費が約30万円、その他に物財費や労働費の約20万円を合算したものが生産コストとなる。
 死産事故を起こした場合、繁殖農家では子牛の取引価格、肥育農家においては、生産コストが損害額となる。
 死産率をゼロにすることが農家の当然の要望であり、MOH-CALはそのための支援システムである。

写真、図表等

MOH-CAL システム構成概要

